

ふるさと教育 取組事例

学校名	吉賀町立七日市小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
5・6	道徳 学級活動	だれもがくらしやすい社会にするために ～ハンセン病から考える～	<ul style="list-style-type: none"> ・吉賀町出身のハンセン病療養所の入所者 ・ハンセン病問題に取り組んできた役場担当者 ・吉賀町におけるハンセン病問題
ねらい	・ハンセン病について正しく理解し、ハンセン病回復者や周りの人たちが受けてきた不合理な差別や回復者の思いについて考えるとともに、だれもがくらしやすい社会の実現に向け、差別や偏見をなくしていこうとする態度を育てる。		
<p>1 取組の概要</p> <p>吉賀町では、ハンセン病問題を中心的な人権課題に据えて、その解決に向けて様々な取組を行っている。そうした町の実態を踏まえ、子どもたちがハンセン病問題を身近に感じ、人権意識を高めるために、吉賀町出身のハンセン病療養所入所者の方や行政の立場からハンセン病問題の解決に向けて取り組んできた役場担当者の方から直接思いを聞く活動を取り入れた。当初は、吉賀町出身の入所者の方と教室をオンラインで繋ぎ、直接質問したり、交流をしたりする時間を設定していたが、実施に至らなかったため、役場担当者の方を介して入所者の方の思いを伺うこととした。</p>			
<p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。 (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉賀町出身の入所者の存在やその方の思い、また、ハンセン病問題の解決に向けて今もなお取り組み続けている事実やそこに対する思いに直接接触することで、ハンセン病問題を中心とした人権課題を身近に感じ、自分事として捉えることをねらいとしている。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当事者の方と直接対話をすることで、相手意識が高まり、よりよく伝えようとしたり、より深く思いを聞き取ろうとしたりすることができると思った。 			
<p>3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等） (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉賀町におけるハンセン病の実態、町内の中高生がハンセン病療養所を訪問し交流してきた歴史などに触れることで、ハンセン病問題を中心とした人権課題を自分たちに身近な問題として捉えることができ、「自分たちにできることは何か」を話し合う次時の学習意欲や今後の実践意欲に高まりが見られた。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手意識をもたせることで、吉賀町で起きた事象について深く知ろうとしたり、ハンセン病回復者の思いについて深く考えようとしたりするなど、探求しようとする姿が見られた。 			
<p>4 課題や今後の展望</p> <p>本単元で題材とした人権課題（ハンセン病）のように、課題であるからこそ、当事者の熱い思いに触れたり、貢献するという姿を具体的にイメージしたりすることができる。ハンセン病問題に限らず、多様な人との関わりを通して、ホンモノの思いに直接接触したり、感じたことを伝え合ったりする活動を意図的・計画的に実施していく。</p>			



*取組の様子がわかるような写真を数枚貼り付けてください。

(このデータはHP等に掲載することがありますので、写真は必ず承諾を得たものを貼り付けてください。)